

地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業

札幌国際大学	
(1) 連携している地元産業界等の組織名称	北海道瀬棚郡今金町
(2) 連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標	<p>本学と地域連携事業の協定を結ぶ檜山管内今金町は、肥沃な土壌や気候の恩恵を受け、農業が盛んで日本一の「今金男爵」をはじめ多くの農産物を生産している。</p> <p>また、「日本一のきれいな川」として、その清らかさを誇っている後志利別川などの美しい自然環境や、ピリカ遺跡などの歴史的に価値ある場所も数多く残されている。</p> <p>このような同町の中でも、とりわけ美利河地区は、奥ピリカ温泉やスキー場の閉鎖など、地域資源を十分に活用することができず、地域の再生が重要な課題となっている。</p> <p>そこで、同町美利河地区が有する「健康」「歴史」「観光」に関わるコンテンツを活用した課題の解決策を、今金町の子供たちと協議し、前年度提案を行なった。</p> <p>今年度は、こうした提案内容(プロジェクト)を現実のものとするための情報収集、試行検証を重ね、課題設定、計画立案、実施、反省・評価の一連の過程を通して、地域資源活用方法の提案や地域の魅力の発信を行い、地域活性化を図ることを目標とする。</p>
(3) 上記(2)の課題の解決に向けて実施する取組みの内容	<p>今年度は、昨年度の提案内容から、今金町美利河地区の魅力発信と来訪者数の増加を図るために特産物の販売を行う「ピリカマルシェ」と、旧石器文化館を中心とした歴史を訪ねるスタンプラリーを実証的に実施すべく、取り組みを展開した。</p> <p>令和元年8月4日(日) 今金町「ピリカまつり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピリカマルシェ 市場に出回る前の早出しの今金男爵イモやアスパラ、ミニトマトなどを格安販売。 ・スマホスタンプラリー 美利河ダム周辺のピリカ旧石器文化館や砂金採掘跡などの歴史的ポイントをQRコードで読み取って巡る。

札幌国際大学短期大学部	
(1) 連携している地元産業界等の組織名称	札幌市清田区
(2) 連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標	<p>【地域の課題】</p> <p>◆地元食材と音楽による地域振興 札幌市清田区は都市部でありながらポーラスター(ほうれん草)、札幌大球(キャベツ)、地鶏卵、いちご、人参等の農産物の生産が盛んな地域である。一方、清田区からはJ-Popの若手歌手が輩出されており、食と音楽による地域振興を図りたいという機運が高まっていた。</p> <p>◆“きよたスイーツ”(※)による地域振興 清田区内には、様々な菓子店が多数営業しており、清田区としてもこれらの菓子店を後押しし、地域振興に役立てるために「きよたスイーツ推進協議会」を組織し、スタンプラリーを実施するなどして、“きよたスイーツ”ブランドの立ち上げを図りたいという希望があった。</p> <p>※きよたスイーツ: 地元の食材を原材料として利用するなど清田らしさをアピールした菓子</p> <p>【地域の課題解決に向けて設定した目標】 地元の食材、スイーツ、音楽を有機的に連関させた取組としてこれまで実施されてきたイベントに学生が参画することで、より効果的な地域振興の方策を具現化する。</p>
(3) 上記(2)の課題の解決に向けて実施する取組みの内容	<p>総合生活キャリア学科と幼児教育保育学科のゼミ活動の一環として、下記の取組を実施すると共に、これらの取組について、その成果を評価し次年度の新たな課題設定へと結びつけるPDCAサイクルを構築した。</p> <p>◆きよたスイーツ応援団 “きよたスイーツ”の本学の大学祭での試食販売を皮切りに、学生が清田区内のスイーツ店を食べ歩く「スイーツバス」を運行し、SNSで情報発信すると共に、効果的なPRの方法を検証する。(6月、8月に実施済、2月にも実施予定)</p> <p>◆「きよたマルシェ&きよフェス」(令和元年9月14日) きよたまちづくり区民会議と本学の共催による食と音楽による地域振興イベント。企画段階から本学の学生が参画し、当日は本学専用ブースで、地元農家が生産した食材を活用した料理の試食品とレンピを提供すると共に、食育をテーマとした巨大絵本オペレッタを上演し、子ども向けの食育プログラムを実施した。</p> <p>◆イベントの事後評価を行う“きよたまちづくり区民会議” 本学学生と清田区による事業評価のヒヤリングの場となる会議を予定(令和2年2月)</p>